

電力・ガス取引監視等委員会・制度設計専門会合

発電側基本料金の見直しについて ～地域密着型バイオマス発電側からの意見～

2020年12月15日

一般社団法人日本有機資源協会

各種バイオマス発電の特徴

・バイオガス発電(メタン発酵)

主な燃料: 家畜排せつ物、食品廃棄物、下水汚泥 + α ⇒ 地域密着、環境価値

・国産木質バイオマス発電

主な燃料: 間伐材、林地残材等 ⇒ 供給ポテンシャル大、地域密着、環境価値

・大規模バイオマス発電

主な燃料: 外国から輸入する材 ⇒ 大規模、需要地に近い、持続性の議論あり

・バイオマス液体燃料発電

主な燃料: パーム油等 ⇒ 大規模、需要地に近い、持続性の議論あり

共通の特徴: 天候に左右されにくく、安定供給が可能。

基本的見解

- ・ 発電側基本料金の導入に当って、電源種にかかわらず、各発電所の**系統側への最大出力kW単位**で負担を求めることは、設備利用率に関わらず発生する費用なので、適切と考える。
- ・ 現在示されている課金水準（1,800円/kW/年）は、規模が相対的に小さく元々収益性が低い地域密着型バイオマス発電には**負担感が大きい**。
- ・ 割引制度の詳細や各電源・類型ごとの課金水準などの見直し（案）を拝見させていただいた上で、**再度のヒアリング**を実施いただきたい。

地域別・電圧別の割引について

バイオガス発電施設は、家畜排せつ物や食品残さを原料としているため、**農村部や郊外に立地**するが多い。
木質バイオマス発電施設は、原料供給元である**山間部に立地**するが多い。

既存の系統設備や需要地までの距離が遠くなる場合が多い**地域密着型バイオマス発電**について、これまでの割引の考え方に加え、**再エネ拡大**の観点から、**適用可能な項目**を検討いただきたい。

今後も注視する議論

①FIT 買取期間中の再生可能エネルギー電源の取扱い

調達価格等算定委員会等において議論される、①FIT認定を受けて既に調達価格が確定しているもの、②発電側基本料金の導入後に FIT 認定を受ける（調達価格が決まる）ことになるものについての、FIT 買取期間中の調整措置。

②送配電設備都合により逆潮できない場合における取扱い

⇒ **丁寧な議論と経過の説明をお願いしたい。**

期待と要望

- ①新制度が、健全な競争を惹起し、事業者と国民にとって公平感のあるものとなり、**再エネ拡大**につながることを期待します。
- ②**既存設備**への適用に当たっては、適用当初は負担額を低くするなど**激変緩和措置**を設定して頂きたい。
- ③小売電気事業者への転嫁に関する**ガイドライン**において、**安定電源**でありカーボンニュートラルに資する**地域密着型バイオマス発電の新規開発**や**既存事業の継続**に配慮をいただきたい。
- ④**ファイナンス**確保のため、**スケジュール感**を示していただきたい。